

農業集落排水施設設計指針（平成14年度改訂版）正誤表

農業集落排水事業諸基準等作成全国検討委員会

項	項目（行）	正	誤
2	図-1-2-2	（ <u>圧力管路</u> ）	（ <u>圧力式管路</u> ）
32	表-3-2-1 1 - 口 競輪場・競馬場・競艇場	n : 人員（人）	n ≡ : 人員（人）
32	表-3-2-1 2 - イ 住宅	130(²) ≤ A の場合	130(²) ≥ A の場合
62	圧力ポンプ施設	・ 中継ポンプ施設及び <u>圧力</u> ポンプ施設を.....に示す。	・ 中継ポンプ施設及びポンプ施設を.....に示す。
62	図-4-2-3	<u>ポンプ</u>	<u>中継ポンプ</u>
82	E : 管の弾性係数	硬質塩化ビニル管 <u>2.942</u>	硬質塩化ビニル管 <u>3.0</u>
88	図-4-4-15	<u>硬質塩化ビニル</u> 製マンホール（例）	<u>プラスチック</u> 製マンホール（例）
95	ポンプ全揚程	ポンプの全揚程は、実揚程とポンプ付属の吐出管、..... を考慮して次式より求める。	ポンプの全揚程は、実揚程と <u>送水管路の損失水頭</u> およびポンプ付属
96	表-4-5-1 （口径、出力、吐出量、全揚程）	<u>チョッパーまたはカット付タイプ削除（列ごと削除）</u> ・ 渦流タイプ 口径50 ~ <u>150</u> 出力 <u>0.4 ~ 22</u> 吐出量0.18 ~ <u>4.0</u> 全揚程3 ~ <u>25</u> ・ 吸込スクリュタイプ 出力1.5 ~ <u>22</u> 吐出量0.5 ~ <u>4.0</u> 全揚程3 ~ <u>25</u> ・ ノンクログタイプ 出力 <u>1.5</u> ~ 22 吐出量0.5 ~ <u>5.0</u> 全揚程3 ~ <u>30</u> ・ グラインダーポンプ 吐出量 <u>0.04 ~ 0.32</u> 全揚程 <u>4 ~ 33</u>	<u>チョッパーまたはカット付タイプの列</u> ・ 渦流タイプ 口径50 ~ <u>100</u> 出力 <u>0.75 ~ 7.5</u> 吐出量0.18 ~ <u>2.0</u> 全揚程3 ~ <u>20</u> ・ 吸込スクリュタイプ 出力1.5 ~ <u>30</u> 吐出量0.5 ~ <u>3.5</u> 全揚程3 ~ <u>30</u> ・ ノンクログタイプ 出力 <u>2.2</u> ~ 22 吐出量0.5 ~ <u>3.5</u> 全揚程3 ~ <u>20</u> ・ グラインダーポンプ 吐出量 <u>0.07 ~ 0.25</u> 全揚程 <u>8 ~ 35</u>
98	内部配管	・ 各ポンプからの立上がり管には、逆止弁を設け、一般に <u>止水弁</u> は設けない。 ・ ただし、圧力ポンプ.....・ <u>止水弁</u> を設ける（圧力式管路施設編第5章 圧力式管路）	・ 各ポンプからの立上がり管には、逆止弁を設け、一般に <u>仕切弁</u> は設けない。 ・ ただし、圧力ポンプ.....・ <u>仕切弁</u> を設ける（圧力式管路施設編参照）
99	図-4-5-7	<u>中継ポンプを用いた</u> 伏越し工例	伏越し工例
99	(2) ポンプ圧送方式	・ (2) ポンプ <u>圧力式</u> ・ <u>圧力式</u> ではポンプ施設を用いることになるが.....	・ (2) ポンプ <u>圧送方式</u> ・ <u>圧送方式</u> ではポンプ施設を用いることになるが.....
104	圧力管路	圧力管路の清掃については、 <u>通常の使用状態では圧力管路の定期的な清掃は不要である。</u>	圧力管路の清掃については、 <u>長時間に.....が考慮することが望ましい。</u>
104	表4-6-1 （圧力式の清掃費の内容）	・ 圧力ポンプ施設 <u>（一般に管路清掃は不要）</u>	・ 圧力ポンプ施設 ・ 管路 <u>（必要に応じて実施）</u>

農業集落排水施設設計指針（平成14年度改訂版）正誤表

農業集落排水事業諸基準等作成全国検討委員会

項	項目（行）	正	誤																																																														
148	表-5-1-14 コンクリートの種類と適用	<p>(1)コンクリート コンクリートの設計基準強度、スランプ等については施工性も考慮し、原則として次表を標準とする。また、水密コンクリート構造物についての水セメント比は55%以下を標準とする。<u>ただし、部材厚が大きくなると水密性は確保できるが、マスコンクリートのひび割れに対する配慮が必要であるため、この場合には水セメント比を5%程度大きくしてもよい。</u></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">設計基準強度 N/mm²</th> <th colspan="2">水 槽</th> <th colspan="2">建 屋</th> </tr> <tr> <th>スランプ cm</th> <th>粗骨材 最大寸法 mm</th> <th>スランプ cm</th> <th>粗骨材 最大寸法 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>25</td> <td>8</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>25または40</td> <td>8</td> <td>25または40</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリート</td> <td>21</td> <td>8~15</td> <td>25</td> <td>15~18</td> <td>20, 25</td> </tr> </tbody> </table>	区分	設計基準強度 N/mm ²	水 槽		建 屋		スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	均しコンクリート	18	8	25	8	25	無筋コンクリート	18	8	25または40	8	25または40	鉄筋コンクリート	21	8~15	25	15~18	20, 25	<p>(1)コンクリート コンクリートの設計基準強度、スランプ等については施工性も考慮し、原則として次表を標準とする。また、水密コンクリート構造物についての水セメント比は55%以下を標準とする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th rowspan="2">設計基準強度 N/mm²</th> <th colspan="2">水 槽</th> <th colspan="2">建 屋</th> </tr> <tr> <th>スランプ cm</th> <th>粗骨材 最大寸法 mm</th> <th>スランプ cm</th> <th>粗骨材 最大寸法 mm</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>均しコンクリート</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>25</td> <td>8</td> <td>25</td> </tr> <tr> <td>無筋コンクリート</td> <td>16</td> <td>8</td> <td>25または40</td> <td>8</td> <td>25または40</td> </tr> <tr> <td>〃</td> <td>18</td> <td>8</td> <td>25または40</td> <td>8</td> <td>25または40</td> </tr> <tr> <td>鉄筋コンクリート</td> <td>21</td> <td>8~15</td> <td>25</td> <td>15~18</td> <td>20, 25</td> </tr> </tbody> </table>	区分	設計基準強度 N/mm ²	水 槽		建 屋		スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	均しコンクリート	16	8	25	8	25	無筋コンクリート	16	8	25または40	8	25または40	〃	18	8	25または40	8	25または40	鉄筋コンクリート	21	8~15	25	15~18	20, 25
区分	設計基準強度 N/mm ²	水 槽			建 屋																																																												
		スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm																																																												
均しコンクリート	18	8	25	8	25																																																												
無筋コンクリート	18	8	25または40	8	25または40																																																												
鉄筋コンクリート	21	8~15	25	15~18	20, 25																																																												
区分	設計基準強度 N/mm ²	水 槽		建 屋																																																													
		スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm	スランプ cm	粗骨材 最大寸法 mm																																																												
均しコンクリート	16	8	25	8	25																																																												
無筋コンクリート	16	8	25または40	8	25または40																																																												
〃	18	8	25または40	8	25または40																																																												
鉄筋コンクリート	21	8~15	25	15~18	20, 25																																																												
149	表-5-1-16 鉄筋許容応力度	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">建 屋 長 期</th> </tr> <tr> <th>SR235</th> <th>SR295</th> <th>SD295A SD295B</th> <th>SD345</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張応力</td> <td>155</td> <td>155</td> <td>195</td> <td>215 [195]</td> </tr> <tr> <td>圧縮応力</td> <td>155</td> <td>155</td> <td>195</td> <td>215 [195]</td> </tr> <tr> <td>せん断応力</td> <td>155</td> <td>195</td> <td>195</td> <td>195</td> </tr> </tbody> </table>		建 屋 長 期				SR235	SR295	SD295A SD295B	SD345	引張応力	155	155	195	215 [195]	圧縮応力	155	155	195	215 [195]	せん断応力	155	195	195	195	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="4">建 屋 長 期</th> </tr> <tr> <th>SR235</th> <th>SR295</th> <th>SD295A SD295B</th> <th>SD345</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>引張応力</td> <td>160</td> <td>160</td> <td>200</td> <td>220 [200]</td> </tr> <tr> <td>圧縮応力</td> <td>160</td> <td>160</td> <td>200</td> <td>220 [200]</td> </tr> <tr> <td>せん断応力</td> <td>160</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>200</td> </tr> </tbody> </table>		建 屋 長 期				SR235	SR295	SD295A SD295B	SD345	引張応力	160	160	200	220 [200]	圧縮応力	160	160	200	220 [200]	せん断応力	160	200	200	200														
	建 屋 長 期																																																																
	SR235	SR295	SD295A SD295B	SD345																																																													
引張応力	155	155	195	215 [195]																																																													
圧縮応力	155	155	195	215 [195]																																																													
せん断応力	155	195	195	195																																																													
	建 屋 長 期																																																																
	SR235	SR295	SD295A SD295B	SD345																																																													
引張応力	160	160	200	220 [200]																																																													
圧縮応力	160	160	200	220 [200]																																																													
せん断応力	160	200	200	200																																																													
162	2.防食工の設計	<p>コンクリート防食工の設計手順</p> <pre> graph TD Start[スタート] --> Step1[1. コンクリートの検査と処置] Step1 --> Step2[2. コンクリートの表面品質とその処理（表面処理・素地調整）] Step2 --> Step3[3. コンクリートの劣化環境と防食の施工ランク] Step3 --> Step4[4. 施工部位と防食の施工ランク] Step4 --> Step5[5. 防食被覆工法の施工ランクと標準仕様の選定] Step5 --> Step6[6. 防食被覆工法の設計仕様の選定] Step6 --> End[エンド] </pre>	<p>コンクリート防食工の設計手順</p> <pre> graph TD Start[スタート] --> Step1[1. 対象コンクリートの所要躯体品質との処理規定] Step1 --> Step2[2. 対象コンクリートの所要躯体表面との処理規定] Step2 --> Step3[3. 防食工の施工部位と施工ランク] Step3 --> Step4[4. 防食被覆工法および使用材料の選定] Step4 --> Step5[5. 防食被覆工法の設計仕様] Step5 --> Step6[6. 所要施工品質と施工管理および検査についての規定] Step6 --> End[エンド] </pre>																																																														

農業集落排水施設設計指針（平成14年度改訂版）正誤表

農業集落排水事業諸基準等作成全国検討委員会

項	項目（行）	正	誤																							
163	表-5-1-26	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="2">施工ランク</th> </tr> <tr> <th>気相部</th> <th>液相部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚泥濃縮貯留槽</td> <td>2種</td> <td>2種</td> </tr> <tr> <td>汚泥濃縮槽</td> <td>2種</td> <td>2種</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	施工ランク		気相部	液相部	汚泥濃縮貯留槽	2種	2種	汚泥濃縮槽	2種	2種	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施設名</th> <th colspan="2">施工ランク</th> </tr> <tr> <th>気相部</th> <th>液相部</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>汚泥濃縮貯留槽</td> <td>2種</td> <td>1種</td> </tr> <tr> <td>汚泥濃縮槽</td> <td>2種</td> <td>1種</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	施工ランク		気相部	液相部	汚泥濃縮貯留槽	2種	1種	汚泥濃縮槽	2種	1種	
施設名	施工ランク																									
	気相部	液相部																								
汚泥濃縮貯留槽	2種	2種																								
汚泥濃縮槽	2種	2種																								
施設名	施工ランク																									
	気相部	液相部																								
汚泥濃縮貯留槽	2種	1種																								
汚泥濃縮槽	2種	1種																								
164	表-5-1-27	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工ランク</th> <th>使用材料</th> <th>被覆工法</th> <th>設計厚 (mm)</th> <th>劣化環境分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">3種</td> <td>エポキシ樹脂</td> <td>補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆</td> <td>0.70以上</td> <td rowspan="2">3種</td> </tr> <tr> <td>セラミック[®]ウタ[®]-入り エポキシ樹脂[®]</td> <td>塗付回数2回以上の被覆</td> <td>5.00以上</td> </tr> </tbody> </table>	施工ランク	使用材料	被覆工法	設計厚 (mm)	劣化環境分類	3種	エポキシ樹脂	補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆	0.70以上	3種	セラミック [®] ウタ [®] -入り エポキシ樹脂 [®]	塗付回数2回以上の被覆	5.00以上	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施工ランク</th> <th>使用材料</th> <th>被覆工法</th> <th>設計厚 (mm)</th> <th>劣化環境分類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3種</td> <td>エポキシ樹脂</td> <td>補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆</td> <td>0.70以上</td> <td>3種</td> </tr> </tbody> </table>	施工ランク	使用材料	被覆工法	設計厚 (mm)	劣化環境分類	3種	エポキシ樹脂	補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆	0.70以上	3種
施工ランク	使用材料	被覆工法	設計厚 (mm)	劣化環境分類																						
3種	エポキシ樹脂	補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆	0.70以上	3種																						
	セラミック [®] ウタ [®] -入り エポキシ樹脂 [®]	塗付回数2回以上の被覆	5.00以上																							
施工ランク	使用材料	被覆工法	設計厚 (mm)	劣化環境分類																						
3種	エポキシ樹脂	補強材(ガラスクロス)を17°ライ積層の被覆	0.70以上	3種																						
193	3	鉄溶液注入方式については、イニシャルコストが安価である。	鉄塩注入方式については、イニシャルコストが安価である。																							
367	表の題目	・硬質塩化ビニル管（リップ付管）	・硬質塩化ビニル 卵形 管（リップ付管）																							
370	工.最大曲げ応力度とたわみ率の算定例（凡例）	<ul style="list-style-type: none"> ・設計たわみ率：硬質塩化ビニル管（円形管）一般に3% ・設計たわみ率：一般の場合2%、礫質土を使用した場合は3% 	<ul style="list-style-type: none"> ・許容たわみ率：硬質塩化ビニル管（円形管）一般に3% ・設計たわみ率：一般の場合、礫質土を使用した場合は3% 																							